

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人 宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11番地86
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

力を入れている点は理念にもあるように、楽しく生活していただけるよう日々の支援も無理強いすることがないように注意し支援にあたっている所です。
アピールしたい点としては、運営推進会議に地域の自治会長・公民館館長・市議員・民生委員・地域包括職員等多くの有識者の方が参加して下さり、活発に意見交換が行われ、施設の運営に活かされているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、「『歓心』心からうれしく心から歓び合える楽しく和やかな処」という理念に沿った介護に努めており、明るくゆっくりのんびりと眺めの良い美しが丘で、利用者が生きる喜びを感じられる支援に努めている。日々職員は利用者と一緒に仲良く生活を送り、笑顔を絶やさないよう心がけている。利用者への声かけは、同じ目線でゆっくり話し、一人ひとりの人格やプライドを傷つけないよう努力している。また、表情や行動をじっくり観察し見守る中で思いや意向を把握し、できる限り利用者が行きたい場所に出かけたり、したいことができるよう取り組んでいる。家族にも信頼される事業所となるよう職員全員で気を引き締め、適切な介護を提供している。訪問調査日には心温まる職員の介助が見られ、昼食時にも楽しく和やかな時間が流れていた。また、毎月テーマを変えて職場内研修を実施し職員のスキルアップに努めたり、運営推進会議では外部評価の「次のステップアップに向けて期待したい内容」を参加者と話し合い、出された意見を率直に受け止め、サービスの向上や改善に努めており、今後の発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム集い

(ユニット名) 歓

記入者(管理者)

氏 名 安藤 和雄

評価完了日 平成 27 年 1 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者及び職員は理念を共有し、入居者の皆様が笑顔で安心した生活が送れるよう実践につなげている。	
			(外部評価) 「『歓心』心からうれしく心から歓び合える楽しく和やかな処」という理念を作成している。「歓(よろこび)・心」の2文字をユニット名としている。理念に沿ったサービスを提供でき、利用者や家族から信頼を得られるよう努めている。また、日々利用者が笑顔を絶やさず、心から喜び安心した生活ができる事業所を目指し努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に積極的に参加し、地域の一員として顔を覚えて頂くよう交流に努めている。 また、運営推進会議にも地域の民生委員さんや自治会長等多く参加していただき、地域交流の手助けをしていただいている。	
			(外部評価) 秋祭りには太鼓台を見学したり多喜浜地区の文化祭を見に出かけたり、公民館のイベントなどの地域行事に積極的に参加している。小学校で開催される「とうど祭り」に出かけ、ぜんざいや豚汁をいただき、利用者に喜ばれている。事業所には、日本舞踊やフラダンスなどのボランティアの訪問もある。また、2か月に1回事業所周辺の草刈りをしたり、地域の避難訓練に参加協力したりするなど、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 相談があればその都度対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で頂いた助言や忠告は真摯に受け止め、その 後のサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、自治会長、民生委員、公民館長、社協支 部長などの参加を得て開催している。会議では事故報告を 行い、意見をもらいながら再発防止に努めている。また、 外部評価の「次のステップアップに向けて期待したい内 容」を話し合い、参加者から出された意見を率直に受け止 め、サービスの向上や改善に努めている。議事録は入居の 状況や行事報告、研修報告、意見交換の内容が詳細に記録 されており、活発な意見が出されている様子を伺うことが できる。管理者はテーマや内容などのアイデアを出しなが ら会議を進めており、今後は職員が順番に参加することも 検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してく れており、助言をいただいている。市の事業所指導係の方 には介護報酬の解釈など相談し教えていただいている。	
			(外部評価) 市介護福祉課の窓口へ認定調査の申し込み内容の変更など に直接出向き、丁寧に説明を聞いている。地域包括支援セ ンターからは、利用の空き状況についての問い合わせがあ る。また、2か月に1回、2名の介護相談員の訪問があ り、利用者の話し相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強会など行い「指定基準における禁止の対象 となる具体的な行為」について理解を深めるとともに、身 体拘束のないケアに取り組んでいる。また同時に、身体拘 束がどうしても必要な場合の対応についても話合ってい る。	
			(外部評価) 身体拘束に関する外部研修を受けたり、全体スタッフ会議 の後に再度学習したりして職員が理解できるよう努めてい る。転倒防止のためセンサーマットを使用する場合には、 家族の同意を得て使用し、できる限り安全な見守りを心が けている。玄関は外からは開くが、内からはボタンを使用 しないと開かないようになっている。帰宅願望のある利用 者には、ドライブなどに誘い気分転換を図っている。ま た、利用者が転倒し骨折した際、家族からクレームは出さ れていないが、転倒した原因を職員間で話し合い、再発防 止と信頼回復に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法については勉強会を行い、高齢者虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している入居者様がないこともあり、成年後見制度の勉強会は行っているが、全職員の理解までにはいたっていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間を確保し、入居希望者及び家族が不安や疑問を残さないよう対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を玄関に設置し、入居者家族からの意見や要望の把握に努めている。また運営推進会議にも参加していただけるよう案内を出すなど家族が意見を表せる機会の確保に努めている。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、要望などを聞き日頃のケアに反映している。利用者の様子はハガキや集い便りを送付したり、電話で必要に応じて伝えている。家族から出された意見は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。迅速に対応を要する内容は、引き継ぎで申し送りを行い対応している。また、利用者から日々の生活の中で「〇〇したい。〇〇に行きたい」などの要望が出され、可能な範囲で希望が叶えられるよう対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度の全体スタッフ会には法人代表者が参加し、職員の意見を見聞してもらう機会を設け、職員の意見を運営に反映させている。 (外部評価) 月1回の全体スタッフ会には法人代表者の参加があり、職員は直接意見を伝えることもできる。職員は管理者には話しやすく、日頃から意見や思いを伝えている。ユニット会で意見を出し合うこともある。利用者へのサービスの向上のため「ユニット毎に新聞をとってほしい」と職員から要望が出され、実現している。また、毎月テーマを変えて職場内研修を実施し、職員のスキルアップやサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人代表者は各職員に自己評価表を作成してもらい個々の努力や実績、勤務状況を把握し公平な人事考課を実施し各職員が向上心を持って働ける環境作りを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内の勉強会は看護師が中心となり全体会で行っている。法人外の研修では研修報告書を作成し研修に参加した職員が全体会で発表を行い全職員が認識するようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 現在は同業者と交流する機会がほとんど確保できてないが、今後は相互評価を実施し同業者との交流機会を確保していきたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にアセスメントの時間を十分に確保し本人の要望の把握や関係づくりに努めているが、家族の状況を考え早急に入居が必要な場合も多く十分とは言えない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談時間を十分に確保し、困っている事不安な事 家族の話をよく聞き安心して預けていただけるような関係 づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談時は、グループホーム入居ありきではなく、その時点 に一番あったサービス情報を提供し、必要に応じて他の サービスの利用調整を含め支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 職員は、入居者を介護される一方的な立場に置かないよう 入居者に地域の歴史や昔の歌などを教えてもらう機会を確 保している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族面会時には、自室にて一緒に過ごしていただき本人の 変化等職員が気付かない事など、アドバイスいただくな ど、共に支えていく関係を築けるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 散髪や買い物に関しても、本人の馴染みの店があれば出来 る限りお連れするようにしている。 (外部評価) 生い立ちや馴染みの品物、家庭での様子など入居時に利用 者や家族からしっかり聞き取り把握している。聞き取りを した内容を検討しながら事業所での生活の流れにまず馴染 んでもらい、そのうえで家族の協力を得て利用者本位の支 援に努めている。昔、四坂島の鉱山で働いていた友人の訪 問があり、昔を懐かしんでいた利用者もいる。月1回受診 のため家族の訪問があり、病院で親しかった人に会えるこ ともあるなど、家族や馴染みの関係が継続できるよう支援 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 作業レク等では、本人のレベルに応じて役割を分担し、入居者同士が関わりあえるよう支援している。また、日常生活でも入居者同士の助け合いについては危険がないよう見守り、場面により介助行うなど臨機応変に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、地域の行事などで交流を深め、情報交換に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりが何を希望し何を求めているのかを把握するために、入居者に寄り添い把握に努めている。また、家族面会時に入居時になかった情報を得られた場合、フェイスシートに追記するなど、出来る限り本人本位の生活が送れるよう努めている。	
			(外部評価) 入居している期間が長くなってくると、利用者一人ひとりの表情や動作により、職員が家族より利用者の喜怒哀楽を感じることができるようになってきている。「馴染みの理髪店に行きたい。お墓参りに行きたい。」などの要望が利用者から出され、希望を可能な範囲で叶えられるよう支援している。自宅に外泊する希望を叶えたところ、その後の落ち込みが激しく不穏になった利用者もいたが、対応を工夫し解決に繋がったケースもある。新聞広告やテレビなどを見て、「買い物したい。ここで食事がしたい」という意思表示がある利用者もあり、実現できるように努めている。新たに把握した内容は記録し、職員間で共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前及び入居時に家族や本人から生活歴、生活環境などについて詳しく聞き把握に努めている。また、把握した情報については、フェイスシートを通して各職員が理解するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ユニット会で各入居者について気づいたことなど話し合い、チームとして総合的に情報を把握するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画とモニタリングは、ユニット職員全員の意見やアイデアを反映したものになるようにしている。家族等の意見や要望については面会時等に近況報告し、把握に努めている。 (外部評価) 面会時などを利用して家族の意見や要望を聞き、利用者の日常生活を理解している職員の意見も反映して介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に確認していただき、捺印をもらっている。毎月ユニット会でモニタリングなどの話し合いを行い、必要に応じて見直しを検討している。事業所のことを信頼して、介護計画やサービス提供を任せる家族も多い。介護計画に沿ったサービスを提供することにより、入居後に「明るく元気になった」と喜んでくれる家族もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の個別記録を基に申し送りを行い、職員間で情報を共有し日々の実践及び介護計画につなげている。また、医療的なことについては、連絡帳を別に作成し特に情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族のニーズに応じて通院介護や散髪の送迎、外出など状況に応じ臨機応変に支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域社会の一員としてイベントや行事にできるかぎり参加し、地域の人々と触れ合うことで楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の受診時には、家族の協力を得て出来る限り 看護師が同行し、入居者の情報提供や今後の対応について 相談を行うようにしている。	
			(外部評価) 指定の協力医はあるが、利用者や家族の希望するかかりつ け医を継続して受診するケースも多い。受診は家族の同行 をお願いしているが、同行できない場合や専門医には看護 師が受診介助を行い、受診内容は必ず家族に報告し、日誌 に記録して職員間でも情報を共有している。内科や歯科は 協力医の往診での対応もしている。事業所では感染予防な ども気をつけ、インフルエンザの予防接種、マスクの着 用、湿度管理を行ったり、ノロウイルス対策、食中毒、脱 水症などの勉強会を実施し、職員への意識付けをしてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤職員として看護師1名を配置し、介護職員の気づきや 相談にすばやく対応できるようにしている。また、入居者 が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合は、情報提供表を病院へ提出すると ともに、本人が安心して治療できるよう必要な情報提供に 努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に重度化や終末期の対応について事業所で出来る 事、出来ない事について十分説明し、同意書に署名しても らっている。	
			(外部評価) 「入所者の重度化した場合における対応に係る指針」を作 成し、事業所として具体的に対応できる内容を利用者や家 族に伝えている。利用者の状態の変化があった場合にも、 家族を交えて話し合い意向を確認している。医療行為ので きない事業所では看取り介護に限界があるため、特別養護 老人ホームへの入所申し込みや病院へ転院された利用者も いる。今までに事業所として看取りの経験はない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応については、全体スタッフ会で看護師より介護職員に伝達している。また、市の救命講習会にも参加し実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもとに、年2回(昼間・夜間想定各1回)避難・消火・通報訓練を行っている。運営推進会議でも自治会へ災害時の協力をお願いしている。 (外部評価) 法人として8月18日を「防災の日」と決め、利用者と職員が非常食を食べることも検討している。3日分の水や食料などの備蓄品を用意しているが、管理者は将来的に災害発生時に地域住民の受け入れができるよう十分な備蓄を用意したいと考えている。定期的実施している防災訓練は自治会長の見学があり、地域住民と一緒に訓練が実現できるよう呼びかけをお願いしている。訓練は消防署に協力してもらい、利用者と一緒に初期消火の訓練を実施している。管理者は緊急連絡網を抜き打ちで実施し、伝達手段の確認をする予定である。また、事業所はオール電化で火災が発生しにくい構造である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ時、更衣時等のプライバシーの配慮はもちろん、日頃の言葉かけにおいても誇りや人格を尊重した言葉かけを徹底している。 (外部評価) 職員は自分がされて嫌なことをしないよう心がけ、日頃から利用者に接している。また、利用者と同じ目線での声かけや話し方に気を配り、利用者からの訴えに対しては、可能な限り対応できるよう努めている。対応している。利用者の呼び方は、利用者と家族を交えて話し合い、人格やプライドを傷つけないよう希望する呼び方で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声かけや本人の話をしっかりと聞いている。表情や行動を観察することにより、入居者の希望を尊重するように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望を聞くことや、好みの作業を一緒に行うことで本人のペースに合わせ生活をしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケア、イブニングケアを行い身だしなみ等に気をつけている。本人と共に洋服を選んだりコーディネートを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方には盛り付けや下膳、食器洗いなど行ってもらっている。その人にあった食べ物を提供するため、副食は刻みにするなど食べやすく工夫している。 (外部評価) 衛生面や栄養価を配慮して、おかずを外部業者に発注し、季節感のある献立となっている。業者からレトルトなどの食材が運ばれ、野菜の刻みや食材のカットは職員が事業所内で行っている。誕生会などの行事には、利用者の好きな献立やケーキを手作りしており、利用者も一緒にできることを手伝っている。キンカンのハチミツ漬を利用者同士で作ることもあり、管理者は男性の利用者にも手伝えることをしてもらえるよう考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 外注によるバランスのとれた食事を提供している。水分量を記入し把握する事により、どの時間に水分摂取をしてもらえばよいかなど検討、実施している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) うがいや義歯をブラッシングするなど入居者のできる範囲で行っていただき仕上げは職員が介助を行い本人の残存能力に応じた対応を心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自立している方以外は声かけを行い定期的にトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 現在、オムツを使用している利用者はいない。以前、夜間のみオムツを使用していた利用者がいたが、状態に合わせて紙パンツやパットなどの排泄用品を使用しながら、排泄パターンを把握して誘導しトイレで排泄できるようになった。排泄の失敗から利用者の自信が失われないよう、できる限り自立した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の入居者に対しては起床時に冷水を飲んで頂いたり、朝食後に出来る限りトイレに座っていただくなど、排便を促す支援をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には週3回の入浴であるが、散髪後や本人希望時などは臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 週3回を基本として入浴することができ、行事の日と日曜日以外は入浴を可能としている。全介助の利用者が多く、職員の見守りが必要である。入浴を嫌がる利用者には、声かけなど職員のチームワークで上手に浴室に誘導し、利用者が湯船に浸かり「いい湯だった」と入浴後に喜びの声を聞くこともある。入浴できない場合には、清拭や足浴を行い、清拭保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人のリズムを尊重し、休息等の支援についてもその都度本人の状態を確認し支援するようにしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的・作用について重要な薬については把握できているが、薬の後発品への変更等もあり、飲まれている薬を全職員が覚えるまでにはいたっていない。薬の服薬については飲み込みまで確実に確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみや食器洗いなど入居者の能力に応じた役割を担ってもらっている。楽しみごとの支援については、歌を嫌う入居者がいたりと一緒に何かを楽しむことは難しく、個別の対応となっており、時間的にも十分行えているとは言えない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 要望があれば、買い物・外出等支援行っているが、外出が強い帰宅願望や妄想に繋がる入居者もあり、散歩等についても積極的な支援は行えていない。 (外部評価) 船木神社や垣生八幡神社に初詣に出かけているほか、季節に応じて、河川敷や山根公園、マイントピア別子に桜や芍薬、菖蒲、アジサイなどを見に出かけられるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。事業所周辺を散歩したり、お弁当を持って出かけ気分転換を図ることもある。また、利用者の希望に応じて、個別に買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の能力を見極め金銭管理が可能な方については、自分で金銭管理を行ってもらっている。また、日頃の管理が難しい方でも買い物の際は、お金を渡し職員が見守ることににより支払いを本人が行えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者の要望に応じて郵便物の投函や受取り、電話の取りつぎをさせていただいてる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共同空間の音や室温等は、室温計を参考に職員が調整している。また、季節感の取り入れについては、入居者と共に四季折々の飾りを作り、壁等に飾り付けしている。異食行為がある入居者の方がおられるため、花を飾ることは、最小限にとどめている。	
			(外部評価) 廊下の幅は広く、車いすを使用している、歩いている利用者とゆったりとすれ違うことができる。リビングでは利用者がボール遊びをしたり輪になって歌ったりすることもある。共有空間は明るくて温かく、リビングとオープンキッチンが一体になっており、調理の様子や美味しいような匂いが利用者の食欲を向上させてくれる。室温や湿度を調節し、利用者が生活しやすいよう配慮している。壁には季節の飾り付けをしているが、異食行為のある利用者がいるため、テーブルに生花は飾っていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内では、一人ひとりの入居者に合わせ仲の良い方を近くに居れる座席配置にしている。一人の時間を大切にしている入居者には、一人で過ごして頂き、居室での時間を大切にしている方には居室で過ごして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が居心地良く過ごして頂けるよう馴染みの置物や写真、寝具などを配置し、快適に過ごして頂けるように配慮している。	
			(外部評価) 居室の入口には表札をつけているが、自分の居室が分からなくなった利用者には、職員が付き添い優しくフォローしている。居室はベッド、タンス、エアコンが備え付けられている。利用者にとって宝物となる人形や使い慣れたもの、生活のため欲しいものなど、家族に協力してもらって運び込み、利用者が安心できる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 適切な場所への手すりの配置、バリアフリーにより安全に過ごして頂ける様配慮している。入居者の出来るテーブル拭きや洗濯物たたみ等出来る事はして頂いてる。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人宝集会
事業所名	グループホーム 集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11番地86
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも謳われているように、入居者の皆さんが心から喜び、心から嬉しく思っただけよう、日頃から温かい声掛けで接しております。 笑顔・笑い声が入居者と職員共に見られています。
ご本人の持つおられる機能を、出来るだけ維持向上されるように、ご自分で出来る事は、ご自身で行っていただき、出来ないところの支援をさせてもらっています。 役割を持たれる事で使命感を感じてもらっています。 ご家族との関わりも大切に面会の際には、情報の伝達を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、『『歓心』心からうれしく心から喜び合える楽しく和やかな処』という理念に沿った介護に努めており、明るくゆっくりのんびりと眺めの良い美しが丘で、利用者が生きる喜びを感じられる支援に努めている。日々職員は利用者と一緒に仲良く生活を送り、笑顔を絶やさないよう心がけている。利用者への声かけは、同じ目線でゆっくり話し、一人ひとりの人格やプライドを傷つけないよう努力している。また、表情や行動をじっくり観察し見守る中で思いや意向を把握し、できる限り利用者が行きたい場所に出かけたり、したいことができるよう取り組んでいる。家族にも信頼される事業所となるよう職員全員で気を引き締め、適切な介護を提供している。訪問調査日には心温まる職員の介助が見られ、昼食時にも楽しく和やかな時間が流れていた。また、毎月テーマを変えて職場内研修を実施し職員のスキルアップに努めたり、運営推進会議では外部評価の「次のステップアップに向けて期待したい内容」を参加者と話し合い、出された意見を率直に受け止め、サービスの向上や改善に努めており、今後の発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 集い

(ユニット名) 心ユニット

記入者(管理者)

氏 名 伊藤 一徳

評価完了日 平成 27 年 1 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員も入居者の信頼を得て相談や、一緒に喜怒哀楽を感じ合える関係が出来ています。 今後も理念に基づき“心”から“歓”んでいただき、安心した生活が送れるよう支援して行きます。 (外部評価) 「『歓心』心からうれしく心から歓び合える楽しく和やかな処」という理念を作成している。「歓(よろこび)・心」の2文字をユニット名ともしている。理念に沿ったサービスを提供でき、利用者や家族から信頼を得られるよう努めている。また、日々利用者が笑顔を絶やさず、心から喜び安心した生活ができる事業所を目指し努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開所以来自治会に入会しております。秋祭りには、地元太鼓台の見学や文化祭等、地域のつながりを大切にし、日常的に交流を行っています。 (二ヶ月毎の草刈や災害避難訓練) (外部評価) 秋祭りには太鼓台を見学したり多喜浜地区の文化祭を見に出かけたり、公民館のイベントなどの地域行事に積極的に参加している。小学校で開催される「とうど祭り」に出かけ、ぜんざいや豚汁をいただき、利用者に喜ばれている。事業所には、日本舞踊やフラダンスなどのボランティアの訪問もある。また、2か月に1回事業所周辺の草刈りをしたり、地域の避難訓練に参加協力したりするなど、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人達や見学に来られた方、また電話での相談事について連絡があれば随時対応しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、家族や地域の自治会長・公民館長・民生 委員の方等に参加していただき、助言や多くの意見交換がな されています。 いただいた意見や助言を基に、質の良いサービスが出来るよ う活かされています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、自治会長、民生委員、公民館長、社協支部 長などの参加を得て開催している。会議では事故報告を行 い、意見をもらいながら再発防止に努めている。また、外部 評価の「次のステップアップに向けて期待したい内容」を話 し合い、参加者から出された意見を率直に受け止め、サービ スの向上や改善に努めている。議事録は入居の状況や行事報 告、研修報告、意見交換の内容が詳細に記録されており、活 発な意見が出されている様子を伺うことができる。管理者は テーマや内容などのアイデアを出しながら会議を進めてお り、今後は職員が順番に参加できることも検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 年に一度の市役所介護福祉課職員の方々との研修に参加し、 質疑応答を行っています。運営推進会議では、地域包括支援 センター職員の方も参加して下さっています。その中で困難 事例や事故の改善策などの助言をいただいています。 また、市役所へも介護保険法の解釈について指導をしても らっています。	
			(外部評価) 市介護福祉課の窓口へ認定調査の申し込み内容の変更などに 直接出向き、丁寧に説明を聞いている。地域包括支援セン ターからは、利用の空き状況についての問い合わせがある。 また、2か月に1回、2名の介護相談員の訪問があり、利用 者の話し相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 禁止の対象となる行為に関して、市役所介護福祉課からの助 言を基に、改善を即座に行っています。正面玄関は、自動式 で内側から開きませんが、職員が開閉出来るので、帰宅願望 があって玄関まで行かれる方には、職員が付添いで自由に 出入り出来るようにしています。	
			(外部評価) 身体拘束に関する外部研修を受けたり、全体スタッフ会議の 後に再度学習したりして職員が理解できるよう努めている。 転倒防止のためセンサーマットを使用する場合には、家族の 同意を得て使用し、できる限り安全な見守りを心がけてい る。玄関は外からは開くが、内からはボタンを使用しないと 開かないようになっている。帰宅願望のある利用者には、ド ライブなどに誘い気分転換を図っている。また、利用者が転 倒し骨折した際、家族からクレームは出されていないが、転 倒した原因を職員間で話し合い、再発防止と信頼回復に努め ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会等での勉強会で、高齢者虐待防止法について、学習を行っています。 管理者は、事業所内で虐待が起こる事のないように、日常的に注意を払っています。 包括支援センターの介護相談員の方にも来ていただき、入居者の方のお話や様子も伺ってもらっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ入居者で成年後見制度の利用をされている方はおりません。 事業所では、施設内での勉強会で学ぶ機会をもうけています。また、研修等での機会があれば参加するようにしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、料金やケアサービスについての考え方・取組方について、また事業所の対応可能な範囲についても、重要事項の説明を行っています。ご家族からの質問についても、疑問の残らないように努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には、意見箱を設置していますが、普段からの信頼関係を大切に、面会時での会話でも聞き出せるように配慮しています。いただいた意見は、スタッフ会等で職員の共通の認識として話し合っています。 話し合った内容は、入居者への改善として取り組んでいる。 (外部評価) 家族の面会時には職員から声をかけ、要望などを聞き日頃のケアに反映している。利用者の様子はハガキや集い便りを送付したり、電話で必要に応じて伝えている。家族から出された意見は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。迅速に対応を要する内容は、引き継ぎで申し送りを行い対応している。また、利用者から日々の生活の中で「〇〇したい。〇〇に行きたい」などの要望が出され、可能な範囲で希望が叶えられるよう対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 理事長や管理者は、職員の考えや意見を自由に発言できる環境作りを常に心掛けている。 職員全体会議には、理事長の出席してもらい職員の自由な意見を見聞してもらっています。 また、管理者を通じて考えを伝えている。 (外部評価) 月1回の全体スタッフ会には法人代表者の参加があり、職員は直接意見を伝えることもできる。職員は管理者には話しやすく、日頃から意見や思いを伝えている。ユニット会で意見を出し合うこともある。利用者へのサービスの向上のため「ユニット毎に新聞をとってほしい」と職員から要望が出され、実現している。また、毎月テーマを変えて職場内研修を実施し、職員のスキルアップやサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得や研修参加の希望があれば、出来る限り参加してもらい、技量の向上に役立ててもらっている。 各職員の希望や思いを大切に考えていると共に、公平で一定のルールに則った人事考課を毎年実施し、査定に役立てています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会東予地区研修に、積極的に参加しています。参加した研修は、研修報告書を作成提出し、全体会議で発表を行って共通の認識として役立てている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各研修や講演が他職種の集まりでもあり、良い情報交換や提供の場となっています。この場を利用して質の向上に努めています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事業所を見学してもらい、雰囲気を体験してもらっています。その際に、話す機会を設けて本人や家族の不安な事や要望を良く伺うようにしています。 と同時に、職員も様子を観察する良い機会であり、参考にさせてもらっています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントシートに家族構成や入居前の様子などを許される範囲で記入してもらい、事業所見学の際に更に情報を収集できるよう努めています。 入手した情報は家族の不安軽減になるように努め、信頼関づくりを目指しています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事業所見学をしていただいた際に、家族からの話と介護保険を利用している事業所からの情報とを総合的に考え、どんな支援が今必要なかを判断し、プランに組み込み実施しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者一人ひとりの人格の尊重と、それぞれが出来る事と出来ない事を見極め、出来る事の役割を持ってもらい、張りのある生活が送れるように支援しています。 また、日々の生活の中で、感謝することを忘れないようにしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの話しには、良く考えながら対応しています。本人からの心配事や要望があれば家族に早く取りつぎ相談し、双方の関係を損なう事のないように十分な配慮をしています。 また、職員は、一生懸命に接していても出来ない事があります。それは、家族になれないことです。家族の力が必要であることを認識しながら関係をつくっています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 強く印象に残っている人や場所の話を話題にしています。 最後には、同じような話しになるのですが、本人も楽しい表情で懐かしんでもらっています。 家族にも本人からの希望であることを伝え、外出にも連立って行ってもらっています。職員からもドライブ等で喜んでもらっています。 (外部評価) 生い立ちや馴染みの品物、家庭での様子など入居時に利用者や家族からしっかり聞き取り把握している。聞き取りをした内容を検討しながら事業所での生活の流れにまず馴染んでもらい、そのうえで家族の協力を得て利用者本位の支援に努めている。昔、四坂島の鉾山で働いていた友人の訪問があり、昔を懐かしんでいた利用者もいる。月1回受診のため家族の訪問があり、病院で親しかった人に会えることもあるなど、家族や馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の皆さんの性格を把握し、共に語り合い協力し合える場面を提供し、お互いの関係を深め楽しく生活が出来る様な支援に努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 諸事情等でサービスの利用が終了した後も、本人やご家族より相談があった際には、出来るだけ応えられる様に情報提供等の支援を心掛けています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の皆さん一人ひとりの思いや希望の把握に努め、家族との情報交換も行っています。皆さん達の思いや意向について関心をより深め、立場に立って考え支援をしています。また、プランに取り入れ、身近なところからも検討しています。 (外部評価) 入居している期間が長くなってくると、利用者一人ひとりの表情や動作により、職員が家族より利用者の喜怒哀楽を感じることができるようになってきている。「馴染みの理髪店に行きたい。お墓参りに行きたい。」などの要望が利用者から出され、希望を可能な範囲で叶えられるよう支援している。自宅に外泊する希望を叶えたところ、その後の落ち込みが激しく不穏になった利用者もいたが、対応を工夫し解決に繋がったケースもある。新聞広告やテレビなどを見て、「買い物したい。ここで食事がしたい」という意思表示がある利用者もあり、実現できるように努めている。新たに把握した内容は記録し、職員間で共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に入手した家族からの情報や資料を基に、更に本人や家族との関係を深めながら、活気のある生き生きとした生活が出来る様に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の生活の流れに沿って、その方の状況の把握に努め、日頃から小さな変化を見逃さない目を養い、少しの変化にも早く対応出来るように、職員間で話し合い情報を共有し配慮しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居者のニーズや家族の要望も聞き取り、職員全員で意見を出し合い、本人や家族にとって何が必要なのかを検討し、プランに取り入れたサービス提供を心掛けています。 (外部評価) 面会時などを利用して家族の意見や要望を聞き、利用者の日常生活を理解している職員の意見も反映して介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に確認していただき、捺印をもらっている。毎月ユニット会でモニタリングなどの話し合いを行い、必要に応じて見直しを検討している。事業所のことを信頼して、介護計画やサービス提供を任せる家族も多い。介護計画に沿ったサービスを提供することにより、入居後に「明るく元気になった」と喜んでくれる家族もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で連携を図り入居者の方々の生活の向上に努めています。 毎朝夕の申し送り時には、報告・連絡・相談を徹底しています。 気付きのあった際には、連絡ノートを利用し、職員全体の共通した認識として心掛けています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人より要望があった時は、家族に連絡を取ることで双方の関係がバランスよくなる様に努めています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 季節感を味わって頂くためにも、年間行事やイベントに参加したり、地域の方達と触れあう事が出来るよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族が希望される病院への受診や往診が出来るように しています。定期受診は、家族にお願い出来るようにしてい ますが、家族に事情がある場合には、看護職員を中心に対応 しています。	
			(外部評価) 指定の協力医はあるが、利用者や家族の希望するかかりつけ 医を継続して受診するケースも多い。受診は家族の同行をお 願ひしているが、同行できない場合や専門医には看護師が受 診介助を行い、受診内容は必ず家族に報告し、日誌に記録し て職員間でも情報を共有している。内科や歯科は協力医の往 診での対応もしている。事業所では感染予防などにも気をつ け、インフルエンザの予防接種、マスクの着用、湿度管理を 行ったり、ノロウイルス対策、食中毒、脱水症などの勉強会 を実施し、職員への意識付けをしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職と看護職との連携をしっかりと持ち、日々の関わり の中で気付いた事や情報等は、報告・連絡・相談を徹底し指示 受けもしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、定期的にお見舞いに行き、状況把握することに努 め、安心して治療が受けられるように。また退院後も安心し て生活が出来るように、馴染みの関係の継続や環境作りに努 めています。病院関係との情報交換にも努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期の対応については、契約の際に説明させてい ただいています。家族からそう言った内容の話しがあった際 にも、都度当施設での出来る事や出来ないことについての説 明をさせてもらっています。	
			(外部評価) 「入所者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成 し、事業所として具体的に対応できる内容を利用者や家族に 伝えている。利用者の状態の変化があった場合にも、家族を 交えて話し合い意向を確認している。医療行為のできない事 業所では看取り介護に限界があるため、特別養護老人ホーム への入所申し込みや病院へ転院された利用者もいる。今まで に事業所として看取りの経験はない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 町の救命救急講習に1年半サイクルで全員参加し、AEDの使用方法や心肺蘇生法を学んでいます。何度も繰り返し受講する事で、技量を身に付けられるように努めています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施している。また、万一災害が起きた場合に、落ち着いて避難出来るよう、皆が見やすい場所に避難手順の用紙を貼り出されています。 更に、食糧や飲料水、日用品等の準備をしています。 (外部評価) 法人として8月18日を「防災の日」と決め、利用者と職員が非常食を食べることも検討している。3日分の水や食料などの備蓄品を用意しているが、管理者は将来的に災害発生時に地域住民の受け入れができるよう十分な備蓄を用意したいと考えている。定期的実施している防災訓練は自治会長の見学があり、地域住民と一緒に訓練が実現できるよう呼びかけをお願いしている。訓練は消防署に協力してもらい、利用者と一緒に初期消火の訓練を実施している。管理者は緊急連絡網を抜き打ちで実施し、伝達手段の確認をする予定である。また、事業所はオール電化で火災が発生しにくい構造である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの誇りと尊厳を尊重し、職員全員がその人に合った声掛けや接し方が出来るように、情報を共有し合って、入居者の皆さんが穏やかに生活をして頂けるように努めています。 (外部評価) 職員は自分がされて嫌なことをしないよう心がけ、日頃から利用者に接している。また、利用者と同じ目線での声かけや話し方に気を配り、利用者からの訴えに対しては、可能な限り対応できるよう努めている。対応している。利用者の呼び方は、利用者と家族を交えて話し合い、人格やプライドを傷つけないよう希望する呼び方で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活で、何かを行う際には、声掛けしながら、本人の意思を尊重し、支援を行っています。 言葉では十分に意思表示が出来ない場合であっても、表情や全身の動作で思いを理解出来るように努力をしています。自己決定の環境作りにも普段からのコミュニケーションで図っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調や様子を観察しながら、一人ひとりに合ったペース、本来の生活ペースを考慮し、その人に合った暮らしになるように支援しています。 その為にも、本人の思いを大切に考えています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみやおしゃれは、日常生活において大変重要視しています。一人ひとりが楽しみにしながら美意識を維持出来るように、本人の好みを表現できるように支援しています。ただ、好みだけを追求していると、毎日同じ服装になりがちですから、家族に好きな色で他の品物を用意してもらえるよう相談をしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日の食事を楽しみにしてもらえる様に、白板を用意し、朝・昼・夕の各食事のメニューが解るようにしています。また、盛り付けやお盆拭き等、生活リハビリにと、出来る事と出来ない事を把握し、出来る事を無理強いのないように声掛けを行っています。 (外部評価) 衛生面や栄養価を配慮して、おかずを外部業者に発注し、季節感のある献立となっている。業者からレトルトなどの食材が運ばれ、野菜の刻みや食材のカットは職員が事業所内で行っている。誕生会などの行事には、利用者の好きな献立やケーキを手作りしており、利用者も一緒にできることを手伝っている。キンカンのハチミツ漬を利用者同士で作ることもあり、管理者は男性の利用者にも手伝えることをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者の皆さん達の好物は、それぞれ違っています。一人ひとりのその日の状態や好みを把握するように努めています。食が進まない方には、家族からの差し入れや本人からの申し出から希望する品物を用意して、時間が長くなっても少しからでも摂取してもらえる様に、温かく声掛けしながら支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは、大切である事と重要視しています。毎食後一人ひとり声掛けしながらの見守り・介助にて実施しています。 使用している歯ブラシ・コップは、定期的に消毒し、義歯については、毎晩洗浄剤に漬け置きしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとり尊厳を守り、排泄の仕方を忘れないように、また意欲や自信の回復の為にオムツを使用せず、自立に向けた支援を行っています。 (外部評価) 現在、オムツを使用している利用者はいない。以前、夜間のみオムツを使用していた利用者がいたが、状態に合わせて紙パンツやパットなどの排泄用品を使用しながら、排泄パターンを把握して誘導しトイレで排泄できるようになった。排泄の失敗から利用者の自信が失われないよう、できる限り自立した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の方には、水分を多めに摂ってもらったり、牛乳や果汁を摂ってもらっています。また、無理のない運動や腹部へのマッサージをしてもらっていますが、それでも続く様であれば、主治医からの指導で処方されている緩下剤を頓服として、服用してもらっています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日、その日の入居者の体調や状態に合わせて入浴をしていただいています。(清拭・足浴) 入浴嫌いな方には、楽しくなった勢いで入ってもらえるような雰囲気作りにも努力しています。 その人に合った温かな声掛けに留意しております。 (週3回の入浴を実施) (外部評価) 週3回を基本として入浴することができ、行事の日と日曜日以外は入浴を可能としている。全介助の利用者が多く、職員の見守りが必要である。入浴を嫌がる利用者には、声かけなど職員のチームワークで上手に浴室に誘導し、利用者が湯船に浸かり「いい湯だった」と入浴後に喜びの声を聞くこともある。入浴できない場合には、清拭や足浴を行い、清拭保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりに合った休息の仕方だったり安眠への心がけをしています。各居室は皆様の空間であり本人の思いを尊重しています。 居室内の安全・衛生面も訪室や声掛けにて出来る限り確認しています。加湿器・濡れタオル・湿度計等で快適な生活環境を提供。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬を処方される時にもらう説明書をよく理解する様にしていますが、ケース内に綴じており、いつでも確認できるようにしています。症状の変化にも注意しながら様子の観察をしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各入居者について、出来る事・出来ない事を把握し、出来る事または、出来るであろう事をして頂くようにしています。この事で使命感を持ってハリのある生活を営んでもらっています。ボール遊びの好きな方や、歌をうたうのが好きな方等、皆さん達に合った楽しみ方で気分転換をしてもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や体調を配慮しながら、事業所の周りを散歩したり、南側の日当たりのいい所で日光浴を楽しんでもらっています。生まれ育った地域へのドライブでは、昔の話しを語ってくれ、懐かしんでもらっています。 (外部評価) 船木神社や垣生八幡神社に初詣に出かけているほか、季節に応じて、河川敷や山根公園、マイントピア別子に桜や芍薬、菖蒲、アジサイなどを見に出かけられるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。事業所周辺を散歩したり、お弁当を持って出かけ気分転換を図ることもある。また、利用者の希望に応じて、個別に買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が困難な方が殆んどですから、金銭は事業所で管理しています。最近外出に出かけましたが、好きな品を注文し、楽しんでもらっています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族と話しをしたいとの希望があれば取次いでいます。また、要件を良く聞き取り伝えています。年賀状も一緒に書くようにしており、出来るだけ自筆の部分を多く書いてもらっています。届いたハガキ等は、時間を掛けながらも読まれています。そんな時には、差出人の事を話してくれます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレや浴室等は、使用後には清潔にしておき、次の方が不快な思いをしないように心掛けています。 リビング内のカーテンは、自由に開閉されています。 ただ、開閉について各自の思いが違うので、都度間に介入して、トラブルの起こらないように見守り・声掛けをしています。 また、季節に合った飾りつけを一緒にしています。 (外部評価) 廊下の幅は広く、車いすを使用していても、歩いている利用者とゆったりとすれ違うことができる。リビングでは利用者がボール遊びをしたり輪になって歌ったりすることもある。共有空間は明るくて温かく、リビングとオープンキッチンが一体になっており、調理の様子や美味しいそうな匂いが利用者の食欲を向上させてくれる。室温や湿度を調節し、利用者が生活しやすいよう配慮している。壁には季節の飾り付けをしているが、異食行為のある利用者がいるため、テーブルに生花は飾っていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 基本的に皆さん達の自由に任されています。 リビングから離れた所にソファを設置しており、仲の良い方同士が自由に座ってお話しを楽しまれたり、一人で自室にてラジオを聞かれたり、自由に過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が安心して過ごせるように、使い慣れた物や家族の集合写真・事業所での写真を居室やホールに飾りつけています。 季節毎に気に入っている衣類を持参してもらっており、本人が自由に選んで楽しんでいます。 (外部評価) 居室の入口には表札をつけているが、自分の居室が分からなくなった利用者には、職員が付き添い優しくフォローしている。居室はベッド、タンス、エアコンが備え付けられている。利用者にとって宝物となる人形や使い慣れたもの、生活のため欲しいものなど、家族に協力してもらって運び込み、利用者が安心できる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各入居者に合ったベッドの高さを考慮し、安全な環境を提供していますが、出来る事と出来ない事の見極めと把握に努め、機能の低下や意欲の低下にならないように配慮しています。 おかずの盛り付けやお盆拭き、軽いモップでの拭き掃除等、役割として生き甲斐を持ってもらえればと考えています。	